

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について
(予報第4号(8月))

標記について、次のとおり発表します。

8月の病害虫発生予報

<作物>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲				いもち病		
				縞葉枯病(ヒメトビウンカ)		
				もみ枯細菌病		
				内えい褐変病		
				紋枯病		
				セジロウンカ		
				トビイロウンカ		
				ツマグロヨコバイ		
				ニカメイガ		
				イチモンジセセリ		
				コブノメイガ		
				フタオビコヤガ		
				斑点米カメムシ類		
			ジャンボタニシ			

<果樹類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
りんご				べと病		
				褐斑病		
				晩腐病		
				黒とう病		
				アザミウマ類		
			フタデンヒメヨコバイ			
もも		クビアカツヤカミキリ(新発生)				

みかん			黒点病		
			そうか病		
			かいよう病		
			ミカンハダニ		
		アブラムシ類			
				ナシマル カイガラムシ	
いちじく			アザミウマ類		
果樹類 全般			果樹カメムシ類		

< 野菜類 >

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			うどんこ病		
			褐紋病		
			ミナミキイロ アザミウマ		
			ミカンキイロ アザミウマ		テントウムシ ダマシ類
きゅうり・ ピーマン・ しそな等			コナガ		
			ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)		

< 花き >

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			黒斑病・褐斑病		
			白さび病		
			アザミウマ類		

< その他 >

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き類 野菜類 全般			アブラムシ類・ ウイルス病		
			ハダニ類		
			ハスモンヨトウ		
				シロイチモジ ヨトウ	
			オオタバコガ		

セジロウンカ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～並であった。 ・西日本で発生がやや多い地域が見られる。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激に増加する恐れがあるので、今後のメールサービス等の病害虫発生予察情報に注意し、発生初期の防除を徹底する。
トビロウンカ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年と同様見られなかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激に増加する恐れがあるので、今後のメールサービス等の病害虫発生予察情報に注意し、発生初期の防除を徹底する。
ツマグロヨコバイ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤はなるべく株元にかかるように散布する。
ニカメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯、フェロモントラップへの飛来は平年と同様に見られなかった。 ・巡回調査では、平年同様ほとんど見られなかった。
イチモンジセセリ(イネツトムシ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様ほとんど見られなかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つと」の発生が目立つところでは8月上旬に防除を行う。
コブノメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・7月の予察灯への飛来虫数、フェロモントラップによる誘殺虫数とも平年並であった。
フタオビコヤガ(イネアオムシ)	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ないから並であった。 ・7月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。
斑点米カメムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の予察灯への飛来虫数は平年並～やや多かった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂2週間前までに、ほ場周辺のけい畔の除草を行う。
ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・植物防疫協力員から、発生がやや多い、発生地域が広がっているとの報告があった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は捕殺する。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生はやや少ない～平年並であった。 ・8月の降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 ・収穫前にボルドー液を散布する際は、果実の汚れを防ぐため棚上散布を行う。 ・収穫終了後もべと病の発生を確認すれば早期に防除する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5～10月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。露地栽培のデラウェア、欧州系品種に多い。 ・近畿におけるぶどうべと病の発生は「やや多い」と予想されている（農林水産省：平成29年7月12日付け「平成29年度病害虫発生予報第4号」）
褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生は確認されなかった。 ・8月の降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地デラウェアに多い。
晩腐病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 ・8月の降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果房は、ほ場外に持ち出し処分する。 ・せん定時に次作の伝染源となる巻きつるは取り除き処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発する。露地デラウェアに多い。
黒とう病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 ・8月の降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害葉、被害果はほ場外へ持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲州、ネオマスカット、巨峰などに発生が多い。

アザミウマ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 ・粘着トラップによる誘殺虫数はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大粒系品種では果実の傷や果軸の褐変が起りやすい。
フタテンヒメヨコバイ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤防除によりダニ類発生を誘発する可能性があるため、ダニ類の発生が見られる園ではダニ剤散布もあわせて行う。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	新規発生	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年府内の農地で初確認された外来種のカミキリムシ。 ・巡回調査で新たにももでの発生が確認された。 ・6～8月に成虫が羽化し、新たな樹へ飛来・産卵する。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成虫は見つけ次第、捕殺する。 ・うどん状のフラス(幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物)のある穴があれば、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入するか、針金で幼虫を突き刺し殺虫する。 ・樹の株元から2m程度の高さまで4mm目ネットを巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に移動するのを防ぐ。 <p>詳しくは6月23日発表の防除情報を参照</p>

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 ・8月の降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、両剤とも、かんきつ(みかんを除く)では収穫90日前までなので注意する
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・8月の降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。

かいよう病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 ・8月の降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏秋梢伸長期(台風後)に発生を認めた場合は薬剤散布を行う。
ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。
アブラムシ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は確認されなかった。 ・黄色水盤による誘殺虫数はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ナシマルカイガラムシ (サンホーゼカイガラムシ)	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、やや多い発生であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫発生期に薬剤を散布する。 ・樹幹や枝に寄生することが多いので、葉や果実だけでなく、これらの部分にも十分薬液がかかるように散布する。

4 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アザミウマ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色粘着トラップによる誘殺虫数はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避ける。

5 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年より並～やや多かった。 ・8月の降水量は平年並か少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。 ・Qol剤(アミスター、ストロビー)、SDHI剤(アフェット)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
褐紋病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・8月の降水量は平年並か少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内の排水を良好にし、窒素質肥料が過用とならないよう注意する。 ・胞子の飛散により発生が拡大するので、発病した葉や果実、枝は直ちにほ場外へ持ち出して処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子伝染するので、自家採種を行う場合は十分に注意する。
ミナキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。
ミカンキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物にトマト黄化えそウイルス(TSWV)を媒介する。

テントウムシダ マシ類 (ニジュウヤホ シテントウ・オ オニジュウヤホ シテントウ)	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや多かった。 ・一部のほ場で多発生であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生を認めたら捕殺する。 ・アディオソ乳剤やモスピラン顆粒水溶剤、コテツフロアブルなどを散布する。 ・薬剤散布後のハダニ類の増加に注意する。
---	------	---

2 あぶらな科野菜(キャベツ・しろな等)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ、予察灯での誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、薬剤抵抗性の系統が増加している。 ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
ハイマダラノメ イガ (ダイコンシンク イ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯での誘殺虫数は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。 ・セル成型苗では発生すると欠株を生じるので、発生初期に防除を徹底する。

D 花き きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・ 褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。 ・被害葉、茎は直ちにほ場外に持ち出して処分する。
白さび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。 ・被害葉、茎は直ちにほ場外に持ち出して処分する。
アザミウマ類	やや少ない～ 並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉に被害を及ぼすミカンキロアザミウマ等の他に、葉にハダニ類に似た被害を及ぼすクロゲハナアザミウマ等があるため、被害状況に応じ防除を行う。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類・ウイルス病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の除草に努める。 ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ウイルス病が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。
ハダニ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除を徹底する。 ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・卵～成虫の各ステージに応じた薬剤を選定する。
ハスモンヨトウ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
オオタバコガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>発生予測モデルでは、平野部では本年第2世代の発生ピークは7/31日頃と推定される。従って防除適期はその7～10日後の8月上旬である。中山間地では2～4日遅れとなる。</u> ・発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ
(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>

最新の防除指針を掲載しています。



病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。



おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。



Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)

